



半田一吉教授

半田一吉教授記念号によせて

社会学部長 西 山 美瑛子

半田一吉先生は、この1994年3月末をもって関西学院大学社会学部教授を定年で御退職になります。今後は、関西学院大学名誉教授として大学や学部の発展をお心にかけていただくこととなります。

半田先生と関西学院との「えにし」は実に60余年にわたります。先生は幼かりし時に幼稚園児として、1930年から2年間、当時の幼稚園園舎であるハミル館に通われ、長じては中学部（旧制5年間）、高等商業学校（旧制3年、現在の商学部の前身）、そして旧制大学文学部英文科3年、旧制大学院1年、新制大学院5年と中学部入学以後の17年間を関西学院の生徒・学生として過ごしてこられたのであります。関西学院大学社会学部には、1961年（昭和36年）に社会学部発足2年目に着任してこられました。1993学年度で勤続33年になられます。半田先生が関西学院で過ごされた年月は、まさに、学院や大学、学部が戦後に大きく発展してきた時期にあたり、先生は専門の御研究や学生への教育のみならず、キリスト教徒としての宗教活動や、学院史研究にも大きな貢献をしてこられました。

半田先生の御専門は英語学で、英語文法の中でもとりわけ16、17世紀の文法、語法に御造詣が深く、1611年のジェイムスI世の欽定訳聖書がその後の英訳聖書に及ぼした影響についての御研究などを発表されました。

社会学部の英語教育について、半田先生は創設間もない時代から今日まで中心になって大いに努力を注がれてきました。1970年代に英国に留学された時も、先生の脳裡には、「日常の教室での実践に役立つ種類のものを」と英語教育法の研究に専念されたとうかがいます。そして社会学部の学生に愛情と教育効果へのたゆまぬ御努力を注がれてこられたのです。本学部の英語教育担当者の優れた人材獲得にも貢献されてきました。こうした半田先生の土台づくりから出発して、現在の社会学部の語学教育の成果は年々上がり、ますます加速度がついているのが現状といえましょう。

半田先生は、本学院学院史資料室で、関西学院の創立者ランバス博士の著述の翻訳をながらく続けてこられ、その他方で関西学院創立以来の校歌、応援歌、寮歌、その他の学生歌を集めて校訂、解説され、『関西学院の歌』第1集、第2集を関西学院キリスト教主義教育研究室から出版されています。半田先生は、学生時代は関学グリー・クラブのメンバーであり、チャペルで今もって深いお声で賛美歌を歌われています。そしてチャペルでの

司会、お話、オルガニストとしても奉仕を続けてこられました。

今ここに改めて半田先生の社会学部御在職33年間の多方面にわたる御貢献に心からのお礼と感謝を社会学部の構成員一同にかわり申し上げたいと存じます。

半田先生は大変ご健脚で関西学院までの道のりを、西宮北口から、あるいは仁川から、学院までの道の折々の景色を愛でつつ歩いて来られたとうかがいました。先生のこれからの御健康、御活躍をお祈り申上げるとともに、今後とも関西学院、そうして社会学部への精神的な御支援と御高導をお願いする次第であります。